

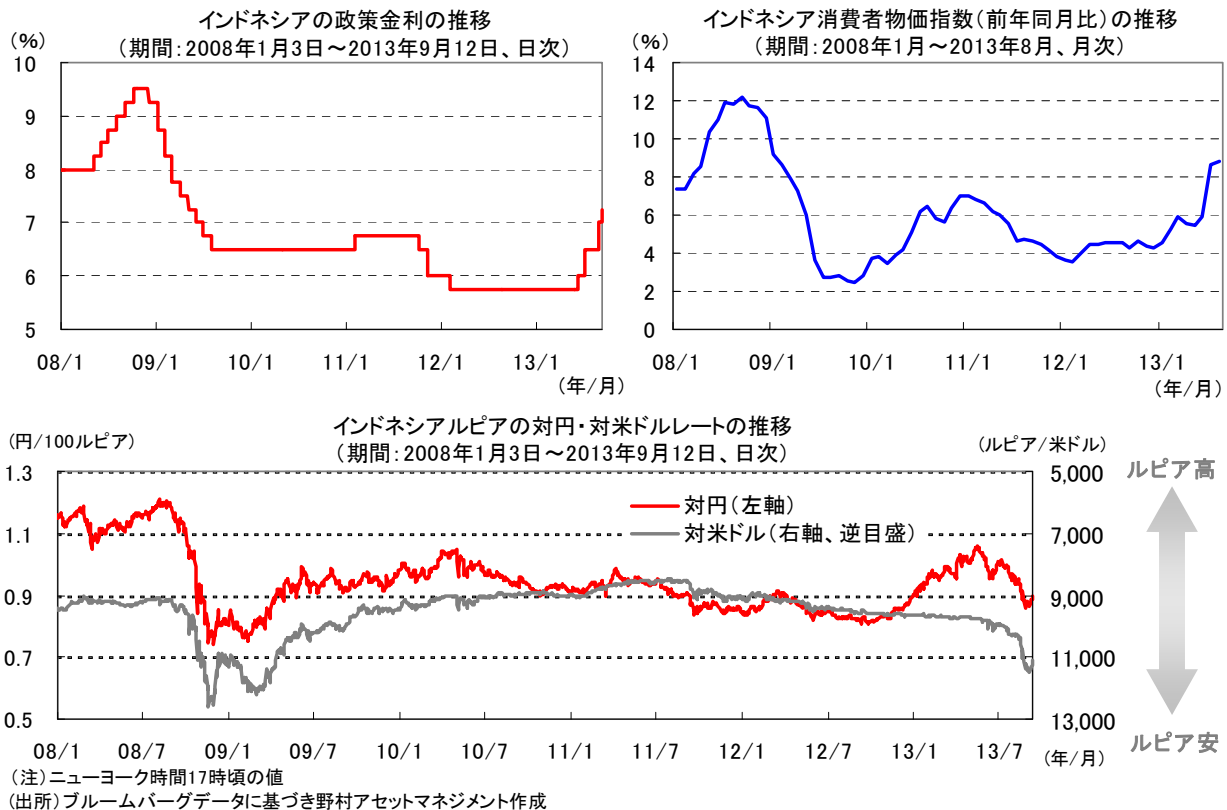
9月12日発表のインドネシアの利上げについて

2013年9月12日、インドネシア中央銀行は市場予想に反して政策金利を0.25%引き上げ、年率7.25%とすることを決定しました。同時に、市中銀行が中央銀行に資金を預け入れる際の「預金ファシリティ金利」を0.25%引き上げて5.50%に、市中銀行が中央銀行から資金を借り入れる際の「貸出ファシリティ金利」も0.25%引き上げて、7.25%としました。同中銀は、先月29日の臨時会合でも政策金利を引き上げており、市場では据え置きが予想されていました。

同中銀は声明の中で、今回の決定について「インフレ率の抑制、インドネシアルピア相場の安定や経常収支の改善を持続的にするための措置」としています。市場は今回の利上げについて、インドネシアルピア相場を支えようとする当局の強い意志の表れと捉えており、インドネシアルピアを下支えするのに十分な措置との見方もあります。

9月12日の外国為替市場(ニューヨーク時間17時頃)では、対米ドルで前日比1.7%、対円で同1.4%のインドネシアルピア高となっています。

次回の金融政策決定会合は2013年10月8日の予定です。



以上

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。